

## 国産ロボ使い胃がん手術 22面

徳島大学病院は、国産の内視鏡手術支援ロボット「hinotori（ヒノトリ）」を使った胃がんの手術に成功したと発表した。四国の病院では初めてで、中四国では2施設目という。同大の胃がんの手術ではこれまで米国製の内視鏡手術支援ロボットを利用しておらず、170例以上の使用実績があるが、国産の支援ロボットは初めて。

# 国産支援ロボで 胃がん手術成功

徳島大学病院は、国産の内視鏡手術支援ロボット「hinotori（ヒノトリ）」を使った胃がんの手術に成功したと発表した。四国の病院では初めてで、中四国では2施設目という。同大の胃がんの手術ではこれまで米国製の内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ」を利用しており、2018年から170例以上の使用実績があるが、国産の支援ロボットは初めて。

十二指腸側の胃の3分の2を切除し、残りの胃と十二指腸をくつつける手術で9月下旬に実施した。患者の術後は良好で、10月中旬に退院したという。内視鏡や手術器具を装着したロボットアームを、コ

ツクピットと呼ばれる少しだけ離れたスペースで操作しながら手術を行う。従来の開腹手術や腹腔鏡手術と比べて、鮮明な3D画像で切除部位などを正確に把握でき、手振れのない手術操作によって、より安全で患者

「ヒノトリ」を使って行われた胃がんの手術＝徳島市の徳島大学病院（同病院提供）

## 治療の選択肢増す

の体への負担が少ない手術が可能になるという。消化器・移植外科の島田先生教授は「国産の手術支援ロボットが使用できるようになり選択肢が増えた。安全で高度な医療を提供したい」と話した。ヒノトリは20年9月に泌尿器科領域での使用が保険適用となり、21年4月に中四国、九州で初めて同大が前立腺がんの手術で使用し成功した。22年12月からは消化器外科、婦人科領域の手術での使用も保険適用となっている。（佐藤聰美）

